

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成 22 年 5 月】

■調査概要

- 調査期間：平成22年6月1日～6月21日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送によるアンケート調査
- 回収状況：建設業19企業、製造業25企業、卸売業18企業、小売業26企業、
飲食業18企業、サービス業（運輸、不動産仲介業を含む）39企業
合計企業145企業
- 調査項目：5月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価状況
向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index) 値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともにマイナス幅が拡大

1. 業況判断

- 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲23.4)よりマイナス幅が2.8ポイント拡大して▲26.2となった。建設業、小売業、飲食業でマイナス幅が縮小した。逆に製造業、卸売業、サービス業でマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月(▲38.3)よりマイナス幅が0.4ポイント縮小して▲37.9となった。建設業、飲食業、サービス業でマイナス幅が縮小した。逆に製造業、卸売業、小売業でマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

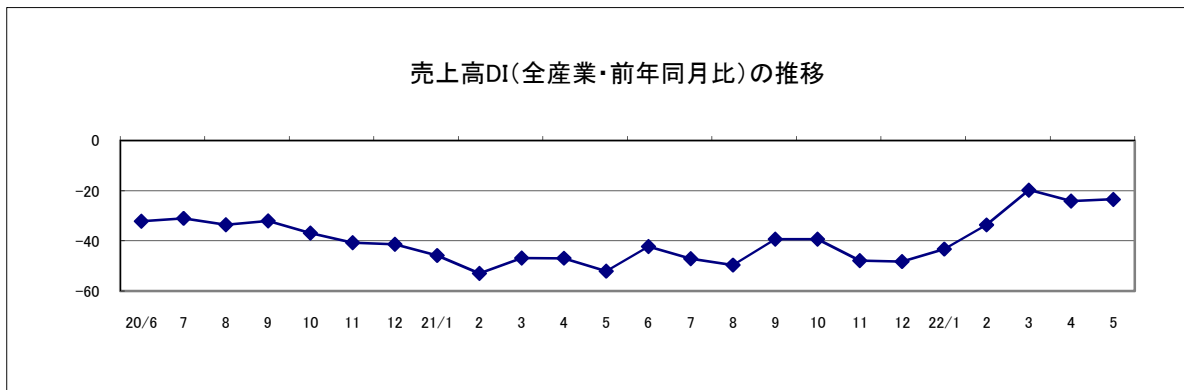
	業況(前年同月比)				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	12.4 (12.8)	49.0 (51.1)	38.6 (36.2)	▲26.2 (▲23.4)	5.5 (5.7)	51.0 (50.4)	43.4 (44.0)	▲37.9 (▲38.3)
建設業	5.3 (0.0)	52.6 (50.0)	42.1 (50.0)	▲36.8 (▲50.0)	5.3 (0.0)	42.1 (44.4)	52.6 (55.6)	▲47.3 (▲55.6)
製造業	8.0 (16.7)	48.0 (41.7)	44.0 (41.7)	▲36.0 (▲25.0)	0.0 (4.2)	44.0 (45.8)	56.0 (50.0)	▲56.0 (▲45.8)
卸売業	22.2 (35.3)	50.0 (47.1)	27.8 (17.6)	▲5.6 17.7	0.0 (11.8)	55.6 (64.7)	44.4 (23.5)	▲44.4 (▲11.7)
小売業	23.1 (19.2)	50.0 (50.0)	26.9 (30.8)	▲3.8 (▲11.6)	15.4 (15.4)	46.2 (57.7)	38.5 (26.9)	▲23.1 (▲11.5)
飲食業	5.6 (0.0)	50.0 (55.6)	44.4 (44.4)	▲38.8 (▲44.4)	5.6 (0.0)	61.1 (50.0)	33.3 (50.0)	▲27.7 (▲50.0)
サービス業	10.3 (7.9)	46.2 (57.9)	43.6 (34.2)	▲33.3 (▲26.3)	5.1 (2.6)	56.4 (44.7)	38.5 (52.6)	▲33.4 (▲50.0)

()内は前月データ

2. 売上高DI(前年同月比)

- 全産業合計の売上高DIは、前月(▲24.1)よりマイナス幅が0.7ポイント縮小し▲23.4となった。
- 業種別に見ると、小売業ではプラスとなった。建設業、卸売業、飲食業、サービス業でマ

売上高DI(全産業・前年同月比)の推移



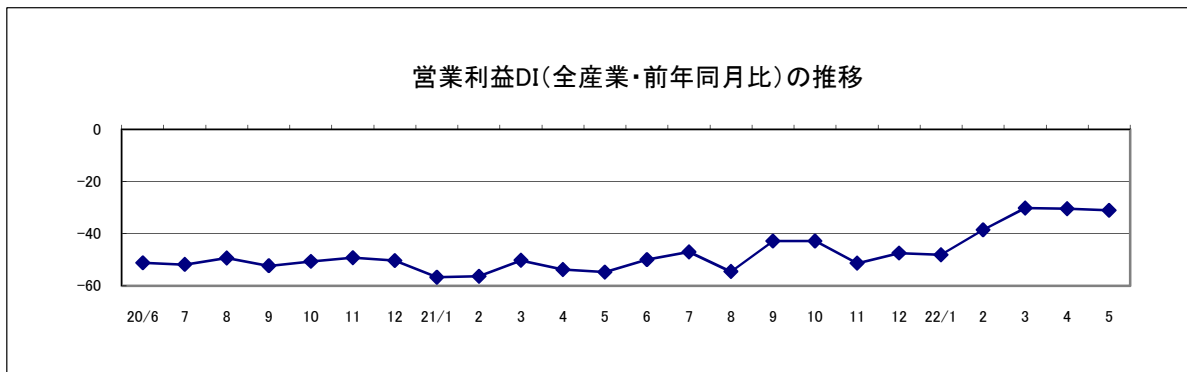
【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	21年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月	5月
全 体	▲ 42.2	▲ 47.1	▲ 49.6	▲ 39.3	▲ 41.2	▲ 47.9	▲ 48.2	▲ 43.3	▲ 33.6	▲ 19.7	▲ 24.1	▲ 23.4
建設業	▲ 27.8	▲ 26.3	▲ 46.7	▲ 40.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 52.6	▲ 37.5	▲ 26.3	▲ 50.0	▲ 36.8
製造業	▲ 58.3	▲ 55.0	▲ 61.9	▲ 36.3	▲ 54.6	▲ 45.5	▲ 54.1	▲ 50.0	▲ 39.1	▲ 13.1	▲ 20.9	▲ 44.0
卸売業	▲ 64.7	▲ 61.1	▲ 52.6	▲ 75.0	▲ 58.8	▲ 63.2	▲ 50.0	▲ 5.9	▲ 6.2	0.0	17.7	▲ 5.5
小売業	▲ 19.3	▲ 34.6	▲ 37.0	▲ 48.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 46.4	▲ 60.9	▲ 42.8	▲ 11.5	▲ 11.5	3.8
飲食業	▲ 68.8	▲ 47.1	▲ 50.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 60.0	▲ 58.8	▲ 55.5	▲ 72.2	▲ 35.3	▲ 44.4	▲ 33.3
サービス業	▲ 34.1	▲ 55.0	▲ 51.2	▲ 29.5	▲ 45.5	▲ 50.0	▲ 47.5	▲ 35.0	▲ 15.4	▲ 27.5	▲ 31.6	▲ 25.7

3. 営業利益DI(前年同月比)

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲30.5)よりマイナス幅が0.6ポイント拡大し▲31.1となった。

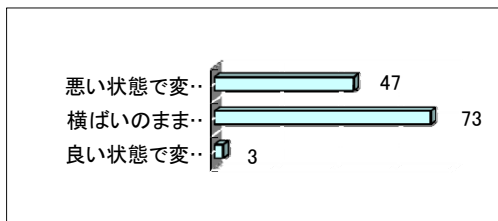
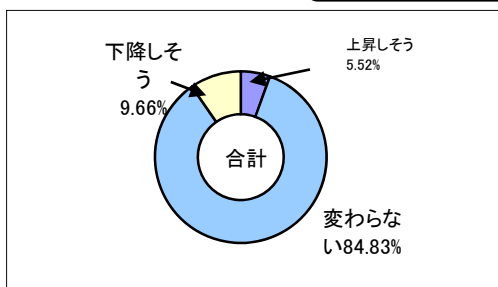
○業種別に見ると、建設業、小売業、飲食業、サービス業でマイナス幅が縮小した。卸売業ではプラス幅が縮小した。逆に製造業でマイナス幅が拡大した。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	21年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月	5月
全 体	▲ 50.0	▲ 47.1	▲ 54.6	▲ 42.9	▲ 48.9	▲ 51.4	▲ 47.5	▲ 48.2	▲ 38.6	▲ 30.2	▲ 30.5	▲ 31.1
建設業	▲ 44.4	▲ 31.5	▲ 53.3	▲ 53.3	▲ 64.7	▲ 33.3	▲ 44.4	▲ 68.4	▲ 37.5	▲ 52.6	▲ 72.2	▲ 63.2
製造業	▲ 70.8	▲ 60.0	▲ 66.7	▲ 40.9	▲ 54.5	▲ 40.9	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 43.5	▲ 21.8	▲ 16.7	▲ 44.0
卸売業	▲ 70.6	▲ 50.0	▲ 68.4	▲ 56.2	▲ 41.2	▲ 57.9	▲ 43.8	▲ 5.9	▲ 6.2	0.0	17.7	5.6
小売業	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 40.8	▲ 40.0	▲ 40.7	▲ 63.7	▲ 39.3	▲ 52.2	▲ 35.7	▲ 26.9	▲ 11.6	▲ 3.9
飲食業	▲ 68.8	▲ 52.9	▲ 43.8	▲ 33.4	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 58.8	▲ 55.5	▲ 72.2	▲ 35.3	▲ 61.1	▲ 44.4
サービス業	▲ 39.0	▲ 52.5	▲ 55.8	▲ 40.9	▲ 47.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 35.9	▲ 37.5	▲ 39.5	▲ 35.9

向こう3ヶ月の見通し



平成22年6月～平成22年8月の見通しDIは「上昇しそう」が前月調査に比べ0.87ポイント縮小して5.52%。「下降しそう」が0.27ポイント縮小して9.66%となった。業種別の見通しDIは建設業(0)、製造業(▲32.0)、卸売業(5.6)、小売業(0)、飲食業(▲5.5)、サービス業(5.1)であった。

➡上昇しそうでは、「ようやく工事物件の受注が入り仕事が動き始めた」(鉄工)、「前月は稼働日数が少なかったため」(工業薬品)、平成中村座、サイトウキネンフェスティバルに期待」(ホテル)、「受注案件が多くなってきた」(機械設計)、「夏期講習シーズンの到来」(学習塾)

➡下降しそうでは、「取引先や得意先の手持ち工事量が極端に少ない」(土木工事)、「仕事が夏枯れの時期になる」(印刷)、「定期的に学校関連の受注が少なくなる」(製本)、「小売(スーパー、コンビニ等)の売上減少」(菓子)、「5月は

業種別景況

DI君の景況判断



1、建設業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヶ月の
極めて低調	極めて低調	極めて低調	極めて低調	まあまあ

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲ 29.4	▲ 27.8	▲ 26.3	▲ 46.7	▲ 40.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 52.6	▲ 37.5	▲ 26.3	▲ 50.0	▲ 36.8
受注量	▲ 47.0	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 60.0	▲ 42.9	▲ 35.3	▲ 27.8	▲ 33.3	▲ 68.4	▲ 50.0	▲ 36.9	▲ 50.0	▲ 63.2
受注単価	▲ 29.4	▲ 55.6	▲ 44.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 41.2	▲ 44.4	▲ 38.9	▲ 42.1	▲ 43.8	▲ 57.9	▲ 38.9	▲ 36.8
営業利益	▲ 58.8	▲ 44.4	▲ 31.5	▲ 53.3	▲ 53.3	▲ 64.7	▲ 33.3	▲ 44.4	▲ 68.4	▲ 37.5	▲ 52.6	▲ 72.2	▲ 63.2
見通し	▲ 17.6	11.1	▲ 10.5	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 23.5	▲ 5.6	▲ 5.5	▲ 10.5	6.3	5.2	▲ 5.5	0.0

経営者の目・見方・etc






電気工事
管工事

土木工事

鉄工

- ・新規の受注が全くなく、資金繰りが困難な状況が続いている。
- ・この時期は例年低調であるが、今年は特に悪い。景気も政界が安定しなければ状況も良くならないのでは？と感じる。
- ・年度末の繁忙期が過ぎ仕事の受注がなくなった。少ない人員で一年間やってきたが結果は大赤字であり、脱力感でいっぱいとなった。骨折り損とは、まさにこのことである。
- ・昨年夏以降、ずっと低迷していたが、ようやく厳しいながらも受注物件が動き出し、工場の稼働も平常になりつつある、しかし先行きは相変わらず不安なままで周囲の同業者の様子を聞いても、明るい兆しは感じられない。今後は資材の値上がりも予想されており、依然厳しい状況である。
- ・景気悪化に伴い、昨年は対前年売上高34%減になった。今年はさらに下降するであろうと予想され、長期の不況が続くと思われる。取引先各社の手持ち工事量が例年の40%以下となってきており、先が見えない。






2、製造業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヶ月の									
													
極めて低調	極めて低調	極めて低調	極めて低調	極めて低調									
(各項目別前年同月比)													
【項目別DIの推移】													
	21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲70.8	▲58.3	▲55.0	▲64.9	▲36.3	▲54.6	▲45.5	▲54.1	▲50.0	▲39.1	▲13.1	▲20.9	▲44.0
受注量	▲58.3	▲75.0	▲57.9	▲66.6	▲31.8	▲63.7	▲40.9	▲50.0	▲54.2	▲43.5	▲13.1	▲25.0	▲32.0
受注単価	▲45.8	▲37.5	▲36.9	▲23.8	▲36.4	▲41.0	▲31.8	▲37.5	▲29.2	▲34.8	▲30.5	▲37.5	▲40.0
営業利益	▲58.3	▲70.8	▲60.0	▲66.7	▲40.9	▲54.5	▲40.9	▲50.0	▲50.0	▲43.5	▲21.8	▲16.7	▲44.0
見通し	▲16.7	▲25.0	▲10.0	4.8	▲4.5	▲9.1	▲22.7	0.0	▲16.6	▲17.4	▲4.3	▲8.3	▲32.0

経営者の目・見方・etc

金属塗装	<ul style="list-style-type: none"> ・最悪期は脱し、底を打ったと思っていたが、ギリシャの債務問題から世界に不安が広がり、為替に影響が出て輸出にブレーキがかかるのではないかと心配である。
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ・「ipad(アイパッド)」が日本で発売されてから、紙の本が無くなると無用にあおられている。個人的には紙の本が無くなる時は、日本の文化も失われると感じる。
菓子	<ul style="list-style-type: none"> ・5月も天候不順で動きが良くない。スーパーも18ヶ月連続で売上高がマイナスなど消費冷え込みが続いている。 ・ゴールデンウィーク中の売上が良くなかったようで、5月の受注量は減少した。昨年5月と比べても悪い。新製品の開発などを考え、売上を伸ばすしか方法はなさそうだ。

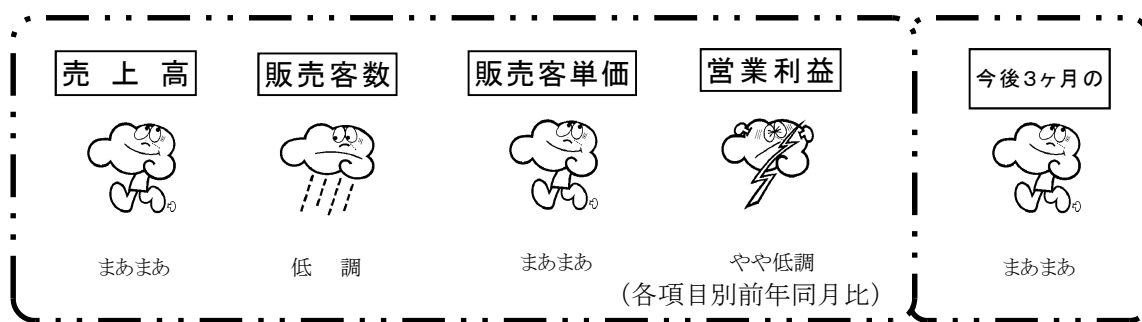
3、卸売業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヶ月の									
													
やや低調	低調	やや低調	まあまあ	まあまあ									
(各項目別前年同月比)													
【項目別DIの推移】													
	21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲70.0	▲64.7	▲61.1	▲52.6	▲75.0	▲58.8	▲63.2	▲50.0	▲5.9	▲6.2	0.0	17.7	▲5.5
販売客数	▲40.0	▲23.5	▲11.8	▲10.6	▲25.0	0.0	▲5.3	▲12.5	0.0	▲18.7	▲11.7	▲11.8	▲16.7
販売客単価	▲45.0	▲35.3	▲23.5	▲26.3	▲50.0	▲35.3	▲36.8	▲31.2	▲29.4	▲18.7	▲17.6	▲17.6	▲11.1
営業利益	▲75.0	▲70.6	▲50.0	▲68.4	▲56.2	▲41.2	▲57.9	▲43.8	▲5.9	▲6.2	0.0	17.7	5.6
見通し	▲15.0	▲17.6	▲11.1	▲15.8	▲18.8	▲17.6	▲10.5	▲6.3	▲11.8	0.0	▲5.9	0.0	5.6

経営者の目・見方・etc

- 電設資材
 - ・製造業の設備改善に向けた受注があり、売上は上昇してきている。しかし、住宅投資は下降のまま変化がない。建設業関連の電気資材では未だに低迷のままで、先行きは不透明である。
- 機械工具
 - ・5月は休日が多く業績にも影響している。不況下で休日が多いと困る。良い話もない。
- 機械部品
 - ・鋼材の値上げがメーカーや問屋筋から連日入ってきている。小企業にとっては価格転嫁に悩むところだ。
- 金属製品
 - ・欧州の財政問題などに起因した世界株式市場の急落により、非鉄金属相場も大幅に下落したことから、需要の減退が懸念され、先行きが不透明な状況となっている。
- 木材・建材
 - ・見積り案件が増え活気が出てきた。この調子で進むことを期待する。しかし、競争も激しく利益確保は難しい。
- 土産品
 - ・観光地に新しいイベントや集客行事が無いいため、観光客も減少している。また消費意欲も低いいため、売店なども大変厳しい状況。
- 青果
 - ・5月は、4月の高値の反動で安値予想をしたものの、5月中旬の気温の低下もあり、野菜、果菜類が入荷減・単価高となった。また、タマネギ、ジャガイモが引き続き高いことから、野菜は前年対比入荷90%、単価103%で終了。果実はスイカ、メロン類の遅れと柑橘類、イチゴが早めに入荷を終えたため、入荷減となるも、前年並みで終了した。市場全体の販売額は前年対比95%で終了した。

4、小売業



【項目別DIの推移】

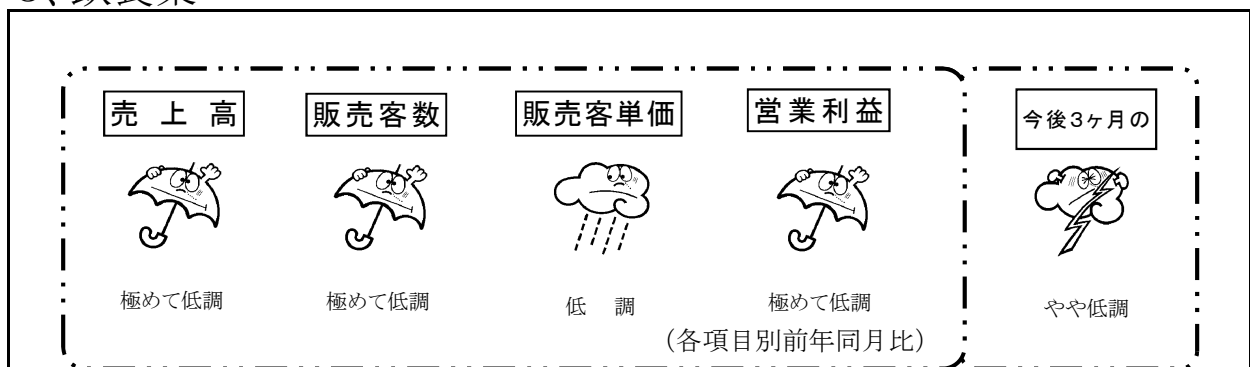
	21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲57.7	▲19.3	▲34.6	▲37.0	▲48.0	▲22.2	▲50.0	▲46.4	▲60.9	▲42.8	▲11.5	▲11.5	3.8
販売客数	▲61.5	▲34.7	▲28.0	▲33.3	▲36.0	▲40.7	▲63.7	▲42.9	▲47.8	▲35.7	▲15.4	▲19.2	▲23.1
販売客単価	▲42.3	▲23.1	▲24.0	▲22.2	▲24.0	▲18.5	▲50.0	▲28.6	▲52.2	▲17.9	▲3.9	▲19.3	0.0
営業利益	▲61.5	▲26.9	▲34.6	▲40.8	▲40.0	▲40.7	▲63.7	▲39.3	▲52.2	▲35.7	▲26.9	▲11.6	▲3.9
見通し	▲26.9	▲3.9	▲7.7	▲14.8	▲16.0	▲25.9	▲13.7	▲21.4	▲13.0	3.5	0.0	0.0	0.0

経営者の目・見方・etc

- ガラスサッシ
 - ・住宅版エコポイントのPRが徐々に効果を出しつつあり、対応に追われている。来年はこの制度がどうなるか不明であるが、今年中はこの勢いであって

ギフト商品	ほしいものだ。 ・夏商戦の仕込みに入っているが、年々商戦が早期化してきているように思われる。
物産品	・国内の観光客が少ない。また客単価が減少している。
印章	・連休以外の週末にも多くの観光客が見受けられた。工芸の五月(クラフトフェア)のイベントが要因ではないだろうか。秋には信州ディステーションキャンペーンがあるので、このイベントに向けての集客対応も今後考えていかなければならない。
食料品	・観光地の宿泊が少ないためか商品の納入が少ない。前年よりも少なく感じ、観光客が少なくなっているのではと感じる。連休などで客が来ても、物を買うのを控えている傾向が強い。
書籍	・店舗販売以外での受注があり、売上は上昇しつつあるものの、個人消費は相変わらず厳しい。何とか打開策を計りたいと思う。
手芸材料	・クラフトフェアの集客効果は抜群であったが、売上に結びついたかと言えばそうとも言いきれない感じであった。
化粧品	・プレミアム商品券は今の時期、非常にありがたかった。しかし全体的に見て、消費拡大や景気底上げになっていたのだろうか。
布団	・働く意欲があるものの仕事がない中高年層が多くなってきており、消費にも影響が出て、小売業などが成り立たなくなっているように感じる。

5、飲食業



【項目別DIの推移】

	21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲47.0	▲68.8	▲47.1	▲50.0	▲22.2	▲50.0	▲60.0	▲58.8	▲55.5	▲72.2	▲35.3	▲44.4	▲33.3
販売客数	▲29.5	▲68.8	▲50.0	▲37.5	▲22.2	▲50.0	▲60.0	▲52.9	▲55.5	▲72.2	▲35.3	▲44.4	▲33.3
販売客単価	▲29.4	▲50.0	▲50.0	▲31.3	▲11.1	▲31.2	▲46.7	▲47.1	▲38.8	▲55.6	▲29.4	▲22.2	▲22.2
営業利益	▲47.0	▲68.8	▲52.9	▲43.8	▲33.4	▲50.0	▲66.7	▲58.8	▲55.5	▲72.2	▲35.3	▲61.1	▲44.4
見通し	▲5.9	0.0	0.0	▲12.5	▲22.2	▲18.7	▲33.3	▲29.4	▲22.2	11.1	5.8	5.6	▲5.5

経営者の目・見方・etc

レストラン カレー	・昨年と比べると悪いが、月間では決して悪い月ではなかった。 ・5月は良い月であった。ゴールデンウィークやクラフトフェアと共に人出があり、街も駐車場も混み、道行く人も期間中は多かった。いつもこのような活気が出るとよいのだが。
中華料理	・人出が少ない。5月の連休は例年より良くなかった。人が出なければ、どの店も良くはならない。頑張りたいのだが先が見えない。
郷土料理	・ゴールデンウィークやクラフトフェア等のイベントは例年並みの活気があった。しかし、5月中の営業は低調な日が続いた。
料理	・連休、クラフトフェア等で一時的に人は動いた。旅行者は多かったが、地

寿司

元の人々の来店が少なかった。また数少ない接待ではしっかりとお金を使っ
てもらいたいものだ。

- ・ゴールデンウィーク及びクラフトフェア等の人出があった時は、売り上げも
比例して上昇したが、それ以外の賑わいは、ほとんどなかったように感じた。
- ・プレミアム商品券の利用が最後の月であった。どの程度まで利用客が伸び
るのか期待と不安があったが、期待の方が大きかった。結果「ものすごく良
かった」とまではいかなかったものの、概ね期待通りであった。次回にも是
非、期待したいものだ。

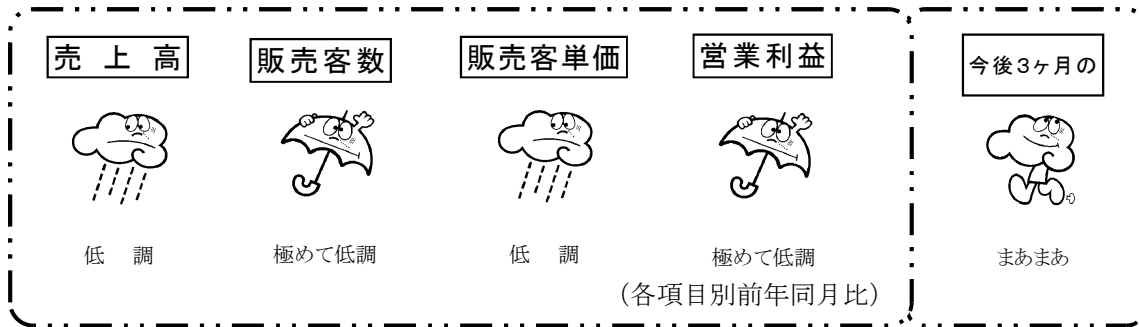
そば

- ・ゴールデンウィーク中の3日間は例年並みの人出であったが、連休以降が
まったく良くなく厳しい状況が続いている。

ラーメン

- ・予想以上に悪い。プレミアム商品券の利用が少ない。経済効果を期待した
があまり効果が見受けられない。

6、サービス業



【項目別DIの推移】

	21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲ 40.5	▲ 34.1	▲ 55.0	▲ 54.2	▲ 29.5	▲ 45.5	▲ 50.0	▲ 47.5	▲ 35.0	▲ 15.4	▲ 27.5	▲ 31.6	▲ 25.7
販売客数	▲ 47.7	▲ 41.4	▲ 45.0	▲ 44.2	▲ 27.3	▲ 50.0	▲ 52.2	▲ 42.5	▲ 35.0	▲ 25.7	▲ 7.5	▲ 26.3	▲ 30.8
販売客単価	▲ 31.0	▲ 24.4	▲ 35.0	▲ 30.2	▲ 27.2	▲ 29.6	▲ 34.1	▲ 32.5	▲ 32.5	▲ 20.5	▲ 17.5	▲ 23.6	▲ 20.5
営業利益	▲ 40.5	▲ 39.0	▲ 52.5	▲ 55.8	▲ 40.9	▲ 47.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 35.9	▲ 37.5	▲ 39.5	▲ 35.9
見通し	▲ 9.5	▲ 4.9	▲ 5.0	▲ 2.4	▲ 13.6	▲ 6.8	▲ 15.9	▲ 7.5	▲ 5.0	▲ 2.5	0.0	▲ 7.9	5.1

経営者の目・見方・etc

機械設計

- ・今年度は大手メーカーの設備投資が多く、当社も今年度中の受注は確保
できた。昨年とは大違いである。

自動車整備

- ・連休が明けたら、売上はさっぱりであった。昨年の今頃は何故か忙しく、仕
事量は多かったが、今年は激減している。大都会の景気とはやはり異
なり、まだ下り坂にあるような気がする。ガソリンの高騰も気になるところ
だ。追い討ちするように天候不順も影響しているようだ。

温泉旅館

- ・落石事故により一週間の休業を強いられたり、新型インフルエンザの影響
でキャンセルに悩まされた昨年と、同じような売上になろうとは、全く予想し
ていなかった。原因がわからず、世の中の不安定さを嘆いていても仕方が
ない。

- ・5月の連休は好天に恵まれ活気があった。加えて高速料金1,000円の恩
恵もあり、この状態が続けばと思う。

- ・信州ディステーションキャンペーンに向けて今後、様々な取り組みや

タクシー	<p>企画が実施となる。皆で盛り上げて松本に多くの客が来るよう期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィークは、連日晴天が続いたにもかかわらず、輸送人員は伸び悩んだ。今年は観光地によって繁閑の差があったように感じた。 ・昨年度の景気が悪かったこともあるが、徐々に戻りつつあるようだ。しかし未だに完全復調とは言い切れない。それでも全体のムードは明るさも見えてきており、引き合いも増えてきた。そんな中、業務用パソコンのウィンドウズ7への切り替え需要はまだ時間がかかりそうで、ウィンドウズXPへのダウングレード品の納入が主流である。 ・過去の借入金に対する返済が負担となって、資金繰りに苦慮している客があるが、金融機関に条件変更などを頼みながら、業績を上げるべく打開策を図っている。苦境、逆境だからこそ生まれるものもあり、そこから学ぶこともある。 ・県内倉庫業の貨物のトップは飲料だが、今夏は冷夏の予想が出たため、心配している。 ・燃料の値上がりが止まったことは好材料である。 ・不景気を要因にせず、自社努力で業績を回復させようという動きが見られる。 ・構造的不況の中、新政権、新内閣で協議し、小規模事業にも目を向けた景気対策を進めてほしい。 ・従業員教育に力を入れていた月なので、時間の有効活用ができた。新入社員も徐々に技術を覚えてきたので、7月～8月の忙しくなる月は万全と考える。
情報関連サービス	
税理士	
倉庫	
マッサージ	
理容	
美容	